High School Human Rights

（高校人権教育通信　第12号）　平成26年（2014年）12月8日
発　行　長野県教育委員会教学指導課心の支援室
発行人　永原　経明（心の支援室室長）
kokoro@pref.nagano.lg.jp

ある「不適切発言」から考える　　男女共同参画社会

男女間の固定的役割分担意識が依然として強く残っているために、社会生活のさまざまな場面において女性が不利益を受けることがあります。男女の違いによって生じる偏見や差別をなくし、すべての男女が社会の対等な構成員として、その能力・個性を十分発揮し、協働してよりよい社会を構築するための意欲を持った人づくりをめざす教育・学習の充実が求められています。

県立高校のある先生は授業で、不妊に悩む女性への支援の必要性に関して質問する女性議員への不適切発言（ヤジ）を取り上げ、生徒とともに男女共同参画社会のあり方を考えてみました。性に関する様々な考え方を紹介した後で、生徒にこの不適切発言についての感想を聞きながら、だれもが「心の豊かさ」「暮らしの豊かさ」を実現できるような社会を実現し、男女の人権が尊重され、あらゆる分野で共に自立し、活躍できる社会システムについて考えました。

【授業の展開】

性に関する様々な捉え方について

・身体的特徴で分類するセックス（SEX）
・社会的文化的につくられた性的な「らしさ」を示すジェンダー（JENDER）
・身体上の性と自覚する性が一致しないトランスジェンダー（TRANS JENDER）

不適切発言の背景として考えられること

・女性への偏見（「早く結婚すること」「子どもを産むこと」）
・自分の思い込みの枠から外れる女性への一方的な烙印

この出来事の問題点として考えられること

・「こうあるべきだ」という適切な理由のない考えの押しつけは暴力。
・公権力の側から適切な理由のない考えの押しつけはなおさら大きな暴力となりうる。
・一人一人、多様な性自認や性に関する考えを持ちながら、同じ社会に生きている。

人権を尊重するとは　　互いに声を聴きあい、違いを尊重し合あえる関係をつくること。
そのための民主主義であり、議会であり政府であることを忘れてはならない。

先生はこのように説明をし、生徒に感想や意見を聞いた後で、終わりにこんな話をされました。

様々なことを問いたい事件ですが、ここではヤジの内容に限って考えてみたいと思います。なぜ、このようなヤジが飛んだのでしょう？女性が「早く結婚すること」「子どもを産むこと」を当たり前だと思い込んでいるのでしょうか。そして自分の思い込みの枠から外れる女性は不幸だ、努力不足だ、失格だ、ということを伝えたかったのでしょうか。では、なぜそのように思い込んでいるのでしょう？

私は、ヤジを飛ばした人とじっくり話をしてみたいです。私は、女性であり、人間です。一人の人間として、その在り方や生き方を認めてほしい。結婚するかもしれないし、しないかもしれない。子どもを産むかもしれないし、産まないかもしれない。思い通りにいかないこともたくさんあるし、助けてもらわなければならないこともあります。結果的にどのようになっても、私が私であることにかわりはありません。それは男性も女性も老人も子どももみんな「おたがいさま」なのではないでしょうか。**多様な在り方、生き方を認め合える関係**を、世の中につくっていければいいなあと心から思います。

私たちの社会には、意識の中にも習慣の中にもジェンダーに基づく固定的な性別役割分担が、依然として根強く残っており、さまざまな分野で男女平等が実現されているとは言えない状況にあります。

だれもが「「心の豊かさ」暮らしの豊かさ」を実現できるような社会を実現し、男女の人権が尊重され、あらゆる分野で共に自立し、活躍できる社会システムをつくることが求められています。

男女共同参画社会

性別に関わりなく「自分らしく」生きるために、社会のあらゆる場面で、多様な選択の機会が確保でき、また男女が「共に」責任を担っていく社会。

違いや多様性を「豊かさ」ととらえて、共に生きていく社会のあり方を考える

「サポーターが相手のチームの選手に向かってバナナを振る」、「特定の民族に対する憎悪の言葉が町中で繰り返される（いわゆるヘイトスピーチ）」など、最近、特定の人種や民族に対する差別の意図を含んだ行為を報じるニュースが増えています。近年の国際化時代を反映して、日本に在留する外国人は平成 19 年度以降、200 万人台を超えており、長野県の外国人登録者数は平成 25 年には 29,924 人となっています。現在、県内の高校では 428 人の外国人生徒が在籍しています。外国出身の保護者の日本の教育制度への理解不足や学校とのコミュニケーション不足が学校における課題となる場合もあります。また日本では歴史的経緯に由来する在日韓国・在日朝鮮人等をめぐる問題のほか、外国人に対する就労差別など様々な人権問題が発生しています。

ある先生は授業で、東日本大震災での日本人の行動について次のように話をしました。

避難者が配給時に順番を守って並んでいたこと、商店での略奪がほとんどなく治安が守られたことを、〇〇人や□□□□人を引き合いに出して紹介しました。授業後、〇〇国籍の生徒が顔を真っ赤にして怒り抗議しました。

「わたしたち〇〇人だって順番を待つこともできるし、略奪をするのは日本人と同じく一部の人たちだけだ。」

皆さんはこの話をどのように受け止められたでしょうか。この話は民族性ジョーク（エスニック・ジョーク）と似ています。民族性ジョークとは、特定の国民・民族を揶揄するタイプのジョークです。民族・国民文化への風刺から作られていて、その特徴はステレオタイプなもので社会的タブーと抵触することがあり、偏見に繋がることが指摘されています。

この先生は前述の生徒の様子から最近は次のように考えているそうです。

国籍や生い立ちなどの違いはありますが、異なる文化や習慣、価値観をもった生徒が同じ学校や教室で学んでいることを常に忘れずにいたいと思います。私は、職業や役割、民族や国家に関して過去の経験から参照した定型的なイメージをもってしまいがちになる傾向があることを意識しながら生徒に接していきたいです。

違いや多様性を「豊かさ」ととらえて、共に生きていく社会のあり方を考え、外国人に対する偏見や差別意識を解消し、外国人の持つ文化や多様性を受け入れ、国際的視野に立って、一人一人の人権を尊重していく観点からの取組が求められています。

●長野県内の高校相当年齢の外国人県民数　「平成 25 年度外国人住民統計」（長野県県民文化部国際課調べ）

高校相当年齢の外国籍県民数 633 人　うち就学している生徒　428 人

12 月 4 日～12 月 10 日は人権週間です。

1948 年 12 月 10 日、第 3 回国連総会で「世界人権宣言」が採択されたことを記念し、国際連合では 12 月 10 日を「世界人権デー」として定めました。日本では 12 月 4 日～12 月 10 日は人権週間とし、世界人権宣言の趣旨と重要性、人権尊重思想の啓発を全国的に行っています。

各校でも一層の人権意識の涵養に向けた取組をお願いします。